

2024 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	宮城県高齢者生活協同組合	代表者	伊藤 恵仁	法人・事業所の特徴	元お鮎屋さんを改装した室内は、壁紙の和紙がほんのりとした温かみと明るさを醸し出し、笑顔こぼれる空間を作っています。そのなかで「暮らしたい場所でのいきいきとした生活を支え、おひとりおひとりの時間を大切にしたい介護をしたい」という思いで 2017 年に開所し 8 年目を迎えます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 いろり庵こぼし	管理者	伊藤 さよ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1 人	4 人	1 人	1 人	1 人	人	2 人	人	10 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	スタッフ会議で事例を深く掘り下げた話し合いを持ち、より利用者を理解し、本人の目標をめざしたかかわりが「できた」と評価できる職員を増やす。 人権を守るためにも認知症基本法の学習勉強会を実施する。	スタッフ会議の限られた時間内ではあったが事例検討することができた。 認知症基本法の学習勉強会も開催できた。	具体的な計画を立てながら取り組んでいることが理解できました。 スタッフが多いので、なかなか全員の意思統一が難しいことが理解できました。	認知症基本法の解説を含む実践に結びつく勉強会、虐待防止法についての勉強会を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見て頂く機会を作る。 行事の案内を出し、新型コロナ感染状況をみながら 5 人以下で参加していただく	イベント案内は行ったが参加は少なかった。	事業所にはいつ見学に行ったら良いのか、イベントの案内をもらうが都合が合わなかったりして、事業所内の様子が見る機会が作れなかったので状況があまり理解できませんでした。しかし、利用者様の様子や活動の様子で知ることは可能でした。	運営推進委員の方々に利用者様や職員の様子を見て頂く機会を作る。 行事の案内を出し、新型コロナ感染状況をみながら数人で参加していただく。
C. 事業所と地域のかかわり	こぼし便りの発行をする。 掲示板の活用をする。	こぼし便りは 2 回発行できた。 掲示板は求人情報のみの掲示でした。	会議の報告で地域のイベントに参加したり、包括との関わりをしている様子は確認できました。	こぼし便りの発行をする。 掲示板の活用をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	感染予防に努めながら季節を感じる行事を継続する。 軒下マップの充実を継続し連携していく。	外に出かける行事も含め季節を感じる行事は実践できた。軒下マップも掘り下げて作成できた。	特になし	感染予防に努めながら季節を感じる行事を継続する。 軒下マップの充実を継続し連携していく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	写真も取り入れわかりやすい報告をする。	行事ごとに写真を取り報告することができた。	今回から利用者様の様子は写真入りになったり、事例を出しながら報告があったのでとても分かりやすい会議でした。地域で一緒に取り組むようなことや地域と関わることは出来ていないように思いました。	写真も取り入れわかりやすい報告をする。
F. 事業所の防災・災害対策	新型コロナの感染状況をみながら運営推進委員会の方に避難訓練に参加いただく。 地域の防災訓練には利用者様と職員が一緒に参加する。 こぼしの防災計画を伝える。	避難訓練には運営推進委員の参加はなかった。 地域の防災訓練は、旗を玄関先にあげることはできた。	防災計画は年間計画書で報告あり、地域の防災訓練にも参加あり、今年は運営推進委員の防災訓練に参加することが出来なかった。災害時に事業所が頼りになるかどうかの判断は出来なかった。	新型コロナの感染状況をみながら運営推進委員会の方に避難訓練に参加いただく。 地域の防災訓練には利用者様と職員と一緒に参加する。 こぼしの防災計画を伝える。